
エビスグループにおけるSDGsの取組について

エビス紙料株式会社



エビスグループにおけるSDGsの取組について

- 1. エビスグループご紹介
- 2. S D G s の取組について

エビス紙料におけるSDGsの取組について

- 1.エビスグループのご紹介
- 2.SDGsの取組について

エビスグループ 沿革

- 1961年 1月 大阪市西区南堀江1丁目においてエビス紙料を創業
- 1988年 9月 エビス紙料株式会社に法人成り
- 1992年 4月 香川県観音寺市大野原町に四国工場新設
- 1999年 9月 有限会社エコテック 設立
- 2000年12月 四国で初めてとなる固形燃料製造工場 愛媛工場を愛媛県四国中央市に新設
- 2010年 4月 四国工場隣接地に固形燃料製造工場 四国工場RPF製造 竣工
- 2010年11月 香川県観音寺市大野原町に本社移転
- 2017年 4月 バイオマス資源化センターみとよ 稼働開始
- 2017年12月 地域未来牽引企業に選定
- 2018年 2月 株式会社エビスわかやま 和歌山工場 竣工
- 2018年 7月 エコアクション21認証・取得
- 2022年 3月 愛媛工場再稼働開始

エビスグループ 拠点紹介

■ 四国工場

段ボール、紙管、不織布、オムツなどの**マテリアルリサイクル**を行っており、原料を半毛・破碎・圧縮などの処理を経て紙や猫砂の原料、ウエス等として再生しております。



(四国工場)

■ 有限会社 エコテック

プラスチックの**マテリアル**事業を行っており、工場より排出されたプラスチックを収集・選別し新たなプラスチック製品に蘇ることが出来るように**ペレット**状に加工して販売しております。



(エコテック四国工場)



(エコテック三木工場)

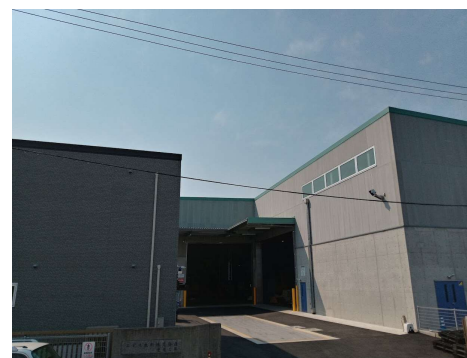
エビスグループ 拠点紹介

- 四国工場（RPF製造）
- 愛媛工場
- 株式会社エビスわかやま

再生に不向きなプラスチック類や、紙くず、木くず等は
破碎圧縮成形により固形燃料「RPF」に加工を行っております。
RPFは石炭の代替品として製紙会社等にて使用されております。
RPFは石炭と比較して、単位熱量当たり約30%のCO₂排出量
削減が可能で、また燃料としても安価・高品質です。



（四国工場RPF製造）



（愛媛工場）



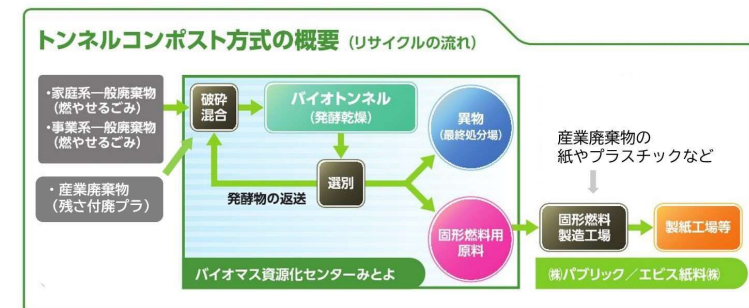
（エビスわかやま）

エビスグループ 拠点紹介

- 株式会社エコマスター（バイオマス資源化センターみとよ）
香川県三豊市の家庭や事業所から排出された燃やせるごみを
好気性発酵の力で乾燥・脱臭させて固形燃料の原料としてリサイクル
をする日本初の工場「バイオマス資源化センターみとよ」を稼働しています。
トンネルコンポスト方式は低価格な可燃ごみ処理方式であり、
環境にやさしいエネルギー源の安定した確保も可能になります。



（バイオマス資源化センターみとよ）



（トンネルコンポスト方式の概要）

エビスグループ業務内容



エビスグループにおけるSDGsの取組について

- 1. エビスグループのご紹介
- 2. SDGsの取組について
 - 1) SDGs宣言
 - 2) 廃棄物の再生・再資源化
 - 3) 環境への取組み
 - 4) 地域貢献
 - 5) 働きやすい職場づくり

エビス紙料(株) S D G s宣言書



■ エビス紙料株式会社SDG s 宣言

百十四銀行様の「百十四SDGs取組支援サービス」にて現状の取組をヒアリング、SDGs宣言書の作成

■ SDGs達成に向けた取組み

- (1) 廃棄物の再生、再資源化
- (2) 環境への取組み
- (3) 地域貢献
- (4) 働きやすい職場づくり

(1) 廃棄物の再生、再資源化



「**限りある地球資源の再活用**」という基本理念のもと、古紙は製紙原料として、プラスチックや不織布は再生ペレットや猫砂の原料、ウエスとしてマテリアルリサイクルを行っております。また、再生に不向きなプラスチック類や紙くず等は固形燃料「**RPF**」に加工し、石炭等の代替燃料として二酸化炭素の削減に役立っています。今後も**温室効果ガスの削減**、**循環型社会の構築**に貢献いたします。

エビス紙料株式会社における産業廃棄物処理



- エビス紙料株式会社では約**42,300 t**の廃棄物を受け入れ、そのうち約**42,000 t**をリサイクルしており、事業全体でのリサイクル率は約**99.3%**になっております。（2019年9月～2020年8月実績）生産されたRPFを石炭の代替として使用することで**13,000 t**以上のCO₂削減が可能です。

2022年3月には愛媛工場が再稼働いたしました。これによりエビスグループ全体での固形燃料生産能力は**6,000 t /月**となります。**脱炭素**や**SDGs**の意識の高まりを受けて、**RPF**の需要は今後も拡大していくことが予想されます。

(株)エコマスターでの一般廃棄物処理



⑥ 圧縮梱包後の
廃棄物固形燃料原料



⑦ 選別後の
廃棄物固形燃料原料



⑥⑦⑧ 後処理設備



④ 発酵・乾燥
(バイオトンネル)



③ ごみ投入



① ごみの受入



② 破碎・混合



- ① ごみの受入
- ② 破碎・混合
- ③ 投入
- ④ 発酵・乾燥
- ⑤ 取り出し
- ⑥ 三種選別
- ⑦ 塩ビ選別
- ⑧ 圧縮梱包
- ⑨ 搬出
- ⑩ 脱臭

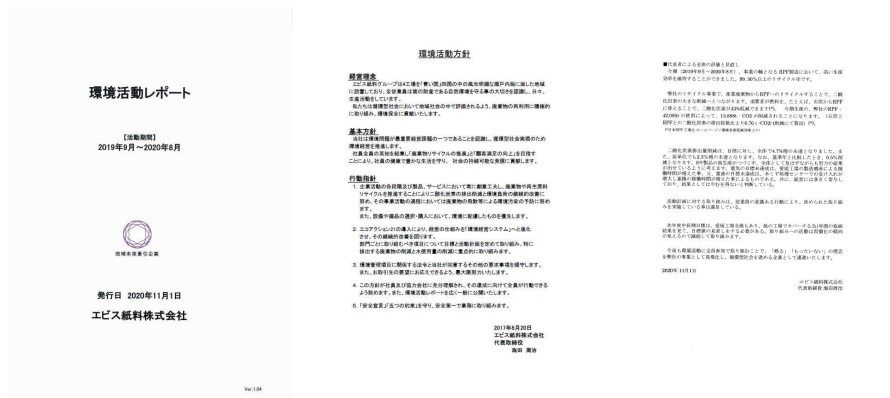
- バイオマス資源化センターみとよでは年間約10,000 t の家庭ごみや事業系ごみの燃やせるごみを全量リサイクルしております。ごみの焼却をやめた効果と固形燃料の石炭代替効果の両面でのCO₂削減効果により年間約10,000 t のCO₂を削減をしております。また、これにより三豊市の一般廃棄物のリサイクル率は大きく向上し、約63%となっており、この数字は全国平均を大きく上回り、香川県内では1位となっております。

(2) 環境への取組み



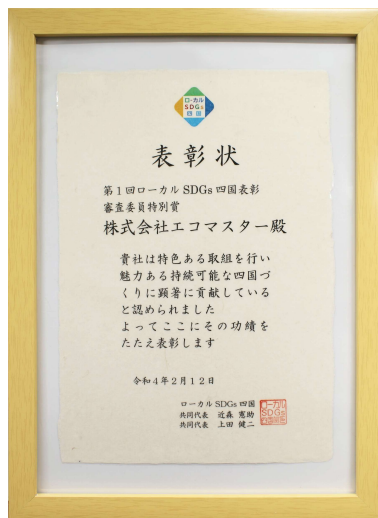
環境省が策定した環境マネジメントシステムである「[エコアクション21](#)」の認定を2018年7月に取得し、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び水排出量について把握し、目標を設定し削減に取り組んでおります。今後も、事業活動全般を通じて、環境への負荷軽減に努めてまいります。

エコアクション21環境活動レポート



- 環境省策定の「**エコアクション21**」の認証を2018年7月に取得。自社のエネルギー使用量や排出量の把握を行い、削減目標を設定し、日々の活動を行っております。また、年1回**環境活動レポート**を作成し、広く一般に公開を行っております。

第1回ローカルSDGs 四国表彰



- 2022年2月（株）エコマスターの取組み「**トンネルコンポストを用いた燃やせるごみのリサイクルでCO₂削減**」が第1回ローカルSDGs四国表彰にてLS四国として他地域への横展開やマッチングを応援すべきと判断したものと**審査委員特別賞**を受賞

(3) 地域貢献



経済産業省の「**地域未来牽引企業**」に選出、
三豊市の「**みとよSDG s 推進パートナー**」への登録など、
地域社会と連携した取組みを積極的に行っております。
また、燃やせるごみを発酵・乾燥させて固形燃料の原料として
リサイクルする日本初の工場「**バイオマス資源化センターみとよ**」
を通じ、各自治体等との連携を強化していき、
地域循環共生圏の形成に寄与します。

みとよSDGs推進パートナー

SDGs未来都市
みとよSDGs推進パートナー

エビス紙料 株式会社

エビスグループはリサイクルに貢献する企業です。

「限りある地球資源の再活用」という基本理念のもと、廃棄物を再生・再資源化する活動を通じて、循環型社会の構築に貢献しています。

再生可能なプラスチックや古紙はマテリアルリサイクルを行い、再生困難な廃棄物は固形燃料「RPF」に加工して石炭等の代替燃料とすることで、二酸化炭素の排出を削減し地球温暖化の抑制に役立っています。

廃棄物の有効利用

「ゴミを資源に変える」これが当社の基本姿勢です。紙・プラスチック等の廃棄物を99%以上の割合でリサイクルしています。

固形燃料RPFとは

マテリアルリサイクルが困難な古紙及びプラスチックを原料とした高火力の固形燃料です。化石燃料(特に石炭)が代替として使用されます。

環境負担の軽減

RPFの発生熱源は石炭と同等ですが、CO2の排出が削減され、酸性雨の原因となるSOx、NOxの発生も抑制されるため環境への負担が軽減されます。



SDGs未来都市
みとよSDGs推進パートナー

株式会社エコマスター Eco Master

トンネルコンポスト方式による三豊市燃やせるごみのリサイクル



私たち株式会社エコマスターは、2021年(平成33年)よりトンネルコンポスト方式による「バイオガス発電・センターみとよ」を運営しています。

ここでは、ごみの燃やせる過程や廃棄物の発生から燃やせるごみの全量を受け取りリサイクルを行っています。トンネルコンポスト方式とは、燃やせるごみを廃棄物の力で発酵・乾燥させて生ごみを分解、残った紙のペーパー、布などを留めて固形燃料にする新しいごみ処理の方式です。

固形燃料は製紙工場などで石炭の代替として利用されます。燃やせるごみを燃やさないことでCO2排出を抑制し、リサイクルした固形燃料が石炭の代わりに使用される燃料の燃焼効率を高めるので、さらにCO2削減されます。

今後とも三豊市の燃やせるごみの処理をより安全・安全にリサイクルし、脱炭素・SDGsの達成に貢献していきたいと思っております。

- 三豊市は令和2年度「SDGs未来都市」に選出され、「SDGs未来都市計画」を策定。SDGsの普及・啓発に取り組んでおり、自ら積極的にSDGsの達成に資する事業を展開し、また共に手を携えてSDGsの達成に取り組んでいただける企業・団体を「みとよSDGs推進パートナー」として登録する制度を創設。エビス紙料・エコマスターはともに2021年に登録されています。

経済産業省のウェブマガジンにて記事掲載



- 2022年2月(株)エコマスターは経済産業省のウェブマガジン「METIジャーナル」にて地域で輝く企業として掲載されました。記事ではトンネルコンポスト方式の解説をはじめ、トンネルコンポスト方式が生まれた経緯等を掲載いただいております。

百十四銀行SDGs応援私募債により柞田小学校への寄贈



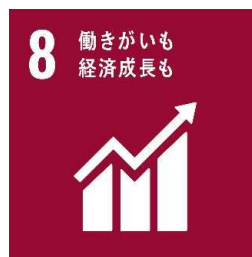
- 2021年3月エビス紙料株式会社発行のSDGs応援私募債にて観音寺市立柞田小学校様にポータブルワイヤレスアンプを百十四銀行様とともに寄贈させていただきました。

地元自治会に防災グッズの寄贈



- 2021年6月地元自治会（丸井南自治会）の要望を受け、エビス紙料四国工場を緊急避難所として活用してもらうほか、水や、非常食、毛布などの防災備蓄品の 備蓄を行い、災害発生時には無償にて提供を行う。また、自治会の全世帯に防災グッズセットの寄贈をさせていただきました。

(4) 働きやすい職場づくり



ストレスチェックの実施や、管理職へのハラスメント研修の実施、労働安全に関する定期的な周知を通じて、誰もが健康で安全に働ける職場づくりに努めております。

また、業務に必要な資格取得費用の補助や資格手当の支給など、人材育成にも力を入れ、働き甲斐のある職場環境の構築にも努めていきます。

管理職へのハラスメント研修

令和3年7月28日

職場におけるハラスメント



高松法務局人権擁護部第一課
人権アドバイザー

- 2021年7月エビス紙料にて外部講師を招いてのハラスメント講習を実施しました。エビス紙料、エコテック、エビスわかやまの管理職が参加しました。今後も定期的を開催することでハラスメントの防止に活用してまいります。

環境教育



【もてあごのしくみ（バイオマス資源化センターより）】

①原料の選別 ごみも資源です。資源として活用するために、種類別に選別をします。	②原料の圧縮 天竜川コンポストの製造で必要となるため、圧縮をします。	③原料の乾燥 天竜川コンポストの製造で必要となるため、乾燥をします。
④原料の発酵 微生物の働きで有機物を分解し、腐敗臭を抑制します。	⑤原料の堆肥化 微生物の働きで有機物を分解し、腐敗臭を抑制します。	⑥原料の篩分け 腐敗臭を抑制するために、篩分けをします。

バイオマス資源化センターの取り組み
当センターでは、日本初のトンネルコンポスト方式で、もてあごのしくみを生かして資源化を進め、もてあごのしくみの中で最も多いのもので、その旨、ごみをたくさんへんらすことができます。
この事業で発生する、処理副産物の堆肥である土壌改良剤も出します。また、元々ごみの処理でも発生していたりも、バイオマス資源化センターの取り組みにより、トンネルコンポスト方式は、腐敗臭を抑え、約三分の二の費用で製造することができます。また、ごみで発生するエネルギーも、土壌改良剤として活用することができます。

トンネルコンポスト方式
腐敗臭を抑え、約三分の二の費用で製造することができます。また、ごみで発生するエネルギーも、土壌改良剤として活用することができます。

- (株)エコマスターには地域の方、行政関係者、同業他社、小学校の社会科見学等多くの方が見学・視察に来られます。日本初のトンネルコンポスト方式の経緯や処理方法の説明、工場見学、質疑応答など皆様に理解していただく説明をしております。また、(株)エコマスターの処理方式は香川県の小学校社会科副読本にも掲載されており、新たな未来を創る子供たちの環境教育にも役立っております。

**弊社は引き続きSDGS達成に向けて
取組んでまいります**

エビス紙料株式会社

